

用語解説

石塚左玄

石塚左玄は1851年に福井市に誕生しました。今から100年以上も前に世の中の根幹は食であり人の心身は食によって作られると食と食育の重要性を訴えました。

又、日本で初めて「食育」という言葉を使った人物として有名です。

栄養教諭

児童・生徒の栄養の指導及び管理をつかさどる教員のことで、栄養教育の推進を目指して平成17年に新たに設けられた制度です。

五感

視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚を言います。

市民

平塚市食育推進計画での市民とは平塚市自治基本条例上の市民を指します。その定義に基づき、市民とは「市の区域内において居住する人、働く人、学ぶ人、事業を営む者、活動する団体等」をいいます。

食育基本法

近年の我が国の食をめぐる状況の変化に伴い様々な問題に対処していくため、平成17年6月、「食育」に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、現在及び将来にわたる健康で文化的な国民の生活と豊かで活力のある社会の実現に寄与することなどを目的として食育基本法が公布されました。

食育推進基本計画

食育基本法（平成17年7月施行）の規定に基づき設置された食育推進会議において、平成18年3月31日に食育推進基本計画が決定されました。この基本計画は18年度から22年度までの5年間を対象とし、食育の推進に当たっての9項目の目標値を掲げるとともに、食育の総合的な促進に関する事項として取り組むべき施策等を提示しています。

食育白書

食育基本法に基づいて政府が報告する白書であり、政府が毎年国会に提出しなければならないとされているものです。

食事バランスガイド

「食事バランスガイド」とは1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかが一目でわかる食事の目安です。「主食」、「副菜」、「主菜」、「牛乳・乳製品」、「果物」の5グループの料理や食品を組み合わせてとれるよう、コマにたとえてそれぞれの適量がイラストで分かりやすく示されています。

食の外部化

近年、家の中で行われていた調理や食事を家の外に依存する状況が見られ、食品産業においても、食料消費形態の変化に対応した調理食品やそう菜、弁当といった「中食」の提供や市場拡大が進んでいる動向を総称して呼びます。

食みらい かながわプラン

神奈川県食育推進計画の愛称。

日本型食生活

日本型食生活は、日本の気候風土に適した米を中心に水産物、畜産物、野菜等多様な副食から構成され、栄養バランスに優れていることから、生活習慣病の予防に役立ちます。また、その土地の旬のものを食べる事は栄養的にも優れており、地産地消にもつながります。

平塚市子どもの生活習慣病予防対策委員会

小児期における生活習慣病の予防のため、平塚市医師会、歯科医師会、保育園、小学校と平塚市がタイアップし平成5年より発足しました。

平塚市総合計画

平塚市の地域特性をいかし、時代に適合する将来のまちの姿を示す総合的、計画的な指針となるものです。食育の推進について、平塚市総合計画の中では、「子どものころから、望ましい食生活・食習慣を身につけるため、地域の食文化や農業・漁業に触れながら、学校や家庭、地域社会における食に関する教育活動を推進します。」と記載されています。

ひらつか花アグリ

神奈川県と平塚市が金田地区に整備した「花と緑のふれあい拠点」の正式名称。
エリア内には四季折々の花を楽しんだり、農業や園芸の体験・学習ができる「花菜（かな）ガーデン」や大型市民農園、農産物大型直売センター、イチゴ収穫体験農園等があります。

村井弦斎

村井弦斎は本名を村井寛（ゆたか）といい、1863年豊橋に生まれました。1904年から63歳で死去する1927年までを現在の平塚市八重咲町で過ごしています。生涯に60編を超える小説を書き、明治・大正期に「当世第一」とうたわれた超人気作家でした。また評論においても、時代を先取りした論説を展開していました。

メタボリックシンドローム

メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪症に加え、高血糖、高血圧、脂質異常という危険因子のうち、2つ以上を保有している状態をいいます。不健康な生活習慣（不適切な食生活、運動不足、喫煙の習慣など）により内臓肥満になり、危険因子が増加し動脈硬化が進行します。

結果的に、深刻な循環器病や心臓病、糖尿病の合併症などの発病につながります。

ヤーコン

ヤーコンは、南米アンデス原産の根菜で、梨のように甘く、しゃきしゃきした食感が特徴で、健康野菜として注目されています。